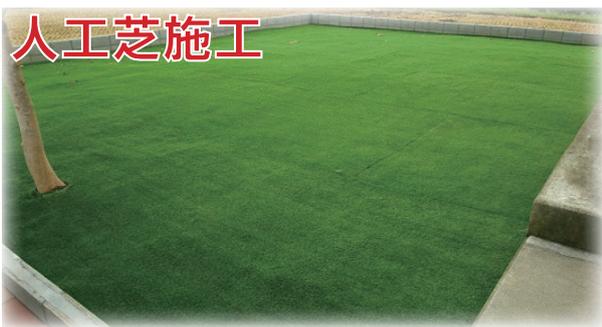


## コンクリート塀工事



- ・お悩み：生垣の手入れが面倒…。
- ・解決!!：コンクリートで塀を作成！上にフェンスも付けて良い感じに！

## 人工芝施工



- ・お悩み：雑草が生え放題で気になる…。
- ・解決!!：防草シートと人工芝でスッキリ、お手入れ不要に！

## 蔵改修工事



- ・お悩み：蔵の老朽化、処分したい物も…。
- ・解決!!：要らない物を処分し、床板、壁を新しくして生まれ変わりました！

# お悩み → 解決!!

末政建設は様々なお悩みを解決します！



## デッキ改修工事



- ・お悩み：シロアリのせいでウッドデッキの板が抜けそう…。
- ・解決!!：劣化しにくい疑似木を使い、頑丈でオシャレなデッキに！  
池の上に作成するという特殊な現場でしたが、強度もバッチリ！

## 和室床改修工事



- ・お悩み：畳と下の板が腐ってる！シロアリがいる跡がある…。
- ・解決!!：防湿シートを施工し、調湿材の炭の入った袋を敷き詰めました！畳まですべて新しくして、気持ちいい和室になりました！

## 建築用語の語源

大工（だいく）と左官（さかん）の語源を調べてみると、色々な説がある事が分かりました。そこで有力と思われる説を中心にご紹介します。

まず飛鳥時代には、棟梁（とうりょう）と左官と右官がいました。棟梁は全体の統括（総合責任者）をして左官は土関連の仕事を担当。そして右官は木関連の仕事を担当していました。つまり、右官は大工さんの事です。しかしその後、棟梁が大工を兼ねるようになり、右官という呼び方は廃れました。なお「大工」という呼び方は江戸時代後期になってからで、それまでは棟梁の他に「大匠」（おおたくみ）とも呼ばれ木工事に限らず各職人の長だったそうです。また「左官」の別の説では、皇居には官位の無いものは入る事が出来ないの、皇居の工事をする際に「壁塗り」職人に「官」という位を与えたとも言われています。

いずれにしても、桃山時代から江戸時代にかけては競ってお城などの大きな建物が建てられ、大工や左官職人は大活躍しました。特に左官職人は、姫路城や庄屋さんの蔵などに代表されるように構造的にも防犯、防火的にもまた内外装の意匠においても重要な役割を果たし匠の技術も向上していったのだと思います。



## [大工と左官編]